

弘前市立博物館 ニュースレター

No. 7

令和5年12月号

Hiroaki City Museum Newsletter

■歳末の候、ごあいさつ申し上げます

12月も半ばを過ぎ、まもなく令和5年に別れを告げ、令和6年を迎える時期となりました。

- 令和5年の博物館では、
 - ・令和4年度特別企画展2「サルバドール・ダリ」
 - ・令和5年度企画展1「花と鳥 ～描かれた生きものたち～」
 - ・特別企画展1「隙あらば猫 ～町田尚子絵本原画展～」
 - ・企画展2「「バカ」がつくほど愛してる。～津軽塗・こぎん・ねふた～」
 - ・特別企画展2「THE 新版画 ～版元・渡邊庄三郎の挑戦～」
 - ・企画展3「博物館に初詣！」

以上、6本の企画展を開催してまいりました。いずれの企画展でも、たくさんの方の来館者をお迎えすることができ、職員一同ありがたい限りです。

令和6年の弘前市立博物館も、これまで以上に多くの来館者をお迎えすべく、多角的に企画展や事業を実施してまいります。

令和5年も一年間弘前市立博物館をご愛顧いただき、誠にありがとうございました。

どうぞよいお年をお迎えください。

(館長 熊谷)

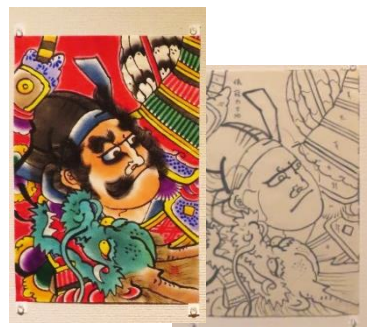
■企画展3「博物館に初詣！」オープンしました！（前編）

12月9日(土)より、無事に企画展3「博物館に初詣！」がオープンしました！本展覧会は「えと」やこよみに関する資料をテーマとして展示を構成しています。

「えと」に関する展示品としては美術工芸展示室にズラリと並べた十二支の動物たちの掛軸や小さいおもちゃ・民具類があります。また、特別展示室内には十二支の動物が描かれた津軽凧、それも「干支凧」と題するシリーズものを展示しました。この干支凧は必見です。

干支凧は昭和期のねふた絵師としても有名な阿部義夫による作品で、「大黒天とねずみ」といったように、十二支の動物とそれらに関するエピソードがある仏や人物を一つにまとめて描いた凧絵です。干支凧は十二支の分が一点ずつあり、また本画だけでなく下絵も一緒に保存されているので、全部で24点の作品群となります。今回の展覧会では、この24点を一挙公開しています。これまでの展覧会でも干支凧12点を並べて展示していたことはあったようですが、下絵を含めて一挙公開したのは初めてです。近くで眺められるよう配置しましたので、ぜひじっく

りとご覧いただきたい作品です。今回は令和6年の干支である辰の分だけ写真を挙げて紹介します。



▲阿部義夫「干支凧 辰-依藤太と辰」 本画・下絵(展示中の写真)

辰の凧の画題とされた人物は依藤太です。依藤太は本名を藤原秀郷といい、10世紀に平将門の乱を平定したことで知られ、歴史の教科書にも名前が載っている人物です。依藤太の龍(辰)に関わるエピソードとして、大ムカデの退治伝説があります。近江国(現・滋賀県)の瀬田唐橋で大蛇(正体は龍神)に大ムカデ退治を依頼され、依藤太は三上山で見事大ムカデを倒します。その後、龍神から褒美を受けたり、竜宮城へ招待されたりしたといわれます。

辰以外の十二支の凧の画題も様々なエピソードがありますので、ぜひ観覧後に調べてみてください。

紙幅が狭くなってきたので、「こよみ」の資料紹介は次回にて！(「博物館に初詣！」担当学芸員 工藤)

■「THE 新版画」撤収、「博物館に初詣！」準備佳境です！〈後編〉

さて、撤収が終わると早速次の展覧会の展示作業…ではなく、まずは固定ケース内などに粘着テープ式の通称コロコロをかけて細かいゴミを除去します。

そして、今回は美術工芸展示室の固定ケース内に緋毛氈を敷きました。シワひとつないように敷くのはなかなか難しいのですが、このような細やかな作業に力を発揮してくれるのが、当館の事務員さんたちです。まさに縁の下の力持ち！また、男性職員は力仕事やライティングなどの高所作業に力を発揮してくれます。職員総出でつくり上げるのが、弘前市博の展覧会なのです。

掛軸を掛けるためには、天井からワイヤーを下げて、ワイヤーフックと呼ばれる専用のフックをつけます。ワイヤーフックには返しがついており、資料が落ちこまないようになっています。掛軸をすべて掛けて、バランスの調整をすると、緋毛氈の上に土人形などを配置します。

土人形は小さいのでキャプションとの兼ね合いが難しく、それでも、キャプションを大きめにしてお客様に見えやすいように工夫しました。

特別展示室は、一代様のパネルや屏風の配置が曲がったりしないよう気を遣って作業をしました。

博物館が2週間のお休みをいただいているあいだ、博物館職員は総出で頑張っているんだよお～というお話でした。

(主査兼学芸員 小田桐)

■現在、常設展は縮小なしでご覧いただけます

約1年ぶりに当館の常設展示が縮小なしのバージョンに戻りました。

特別企画展や、普段の企画展でも、お客様にたくさんの資料を見ていただきたい！と思うと、だんだん常設展が縮小されてしまいます。「常設展を見たくて来た」とおっしゃってくださるお客様も一定数おられて、学芸員サイドとしては、狭い空間をどのように使うか、悩みどころでもあるのです。

さて、今回常設展が戻りましたと言っていますが、すっかり同じに戻した訳ではなく、常設展も少しずつ変化しており、細かいところはキャプションの変更から、大きいところでは、今回、旧石器時代コーナーやこぎんや津軽塗といった伝統工芸コーナーを追加しました。

リピーターの皆様にも、「いつも同じだから」と素通りせずに、常設展もゆっくり見ていただきたいなと思います。(主査兼学芸員 小田桐)

■Fb&インスタ！～12月編～

新しい企画展が始まり、団体での見学の依頼が増えてきました。今回はお子様でも楽しめる内容なので、



▲あおい杜保育園の見学のようす

保育園などの児童向け施設での見学が多いです。目を輝かせて作品に見入る子供たちに癒されます。

(主事 児玉)

■予告:新年の博物館へ展示を見に来ると、ちょっといいことがあるかも！？

年明けは1月4日(木)から開館します。その際、年明け観覧者プレゼントと題し、企画展にまつわるプチノベルティグッズをお渡しする予定です！デザインはもらってからのお楽しみです。展示資料にまつわるものをお渡しする予定です。ぜひ年明けにも「博物館に初詣！」

(「博物館に初詣！」担当学芸員 工藤)

■まだまだ押せます、「多色摺り体験スタンプ」!

特別企画展2「THE 新版画～版元・渡邊庄三郎の挑戦」の会期中ロビーに設置していた、いのっち柄の「多色摺り体験スタンプ」について、ご好評につき継続して設置しております。

柄はそのままなので、紅葉といのっちの秋らしい絵柄のままになっていますが…以前の展示の会期中に来られなかった方や、改めてまたやってみよう方もぜひスタンプを楽しんでください。

企画展3「博物館に初詣！」の会期が終わる2月12日(月・振休)まで設置予定です。(主事兼学芸員 工藤)

